



Product for Clients

Career Power Life & Information Plaza

Powered By CareerPower

株式会社 キャリアパワー

創刊 100 号記念号

2025.2 FEBRUARY

早稲田大学

立命館大学

慶應義塾大学

中京大学

おかげさまで

Vol. **100**

100 号記念特集インタビュー

2024年、弊社広報誌CapoはおかげさまでVOL.100号を迎えることができました。

100号記念特集では、創刊当初より長きにわたりお付き合いいただいている

4大学様にご登場いただき、貴重なインタビューを掲載いたしました。

これまでの歩みを振り返りながら、未来への想いを語っていただいています。

相乗効果をさらに高めて、時代のニーズに合わせたサービスを



木下 和彦様

慶應義塾大学
三田メディアセンター事務長

外部委託開始当時から現在までを比較して

本

学が御社との委託契約を開始したのは、三田メディアセンターにおける閲覧業務の外部委託が最初で、2002年のことでした。御社の沿革によれば、東京支社が開設されたのが2001年となっておりますので、関東圏では比較的早い時期から関係を構築させていただいているのかなと思います。その後、2009年から信濃町メディアセンターで、2014年からは理工学メディアセンターでも閲覧業務の外部委託をお願いしております。

2002年頃の本学のトピックとしては、長期的な展望による資料収容計画の検討、学内における分担収集方針の検討、書誌データ整備、電子図書館整備などがありました。紙による出版物が一般的で、電子媒体資料は、まだCD-ROMのものもある中で、インターネットでの提供に舵を切って拡充をはじめた状況であったことが伺えます。資料収容計画は、その後紆余曲折を経て、2016年に山梨県山中湖村にある保存書庫（山中資料センター）に第2棟ができたことで一旦は落ち着いております。書誌データ整備は、OPACで検索できない資料が当時はまだ多くあり、その遡及入力作業が大きな問題となっていたものですが、これも長い年月をかけて解消し、まだ100%とはいえませんが、利用者の求める資料はほぼOPACで検索できる状況となっています。

また、1996年から日吉メディアセンターで始まった情報リテラシープログラムは、その後他のメディアセンターにも広がり、現在では図書館活動として欠かすことのできないものとなっています。2004年には湘南藤沢メディアセンターで飲食ルールの運用が開始されました。これはふたが閉まる容器の飲み物であれば、一部のエリアで飲用を認めるなどのルールでしたが、これも現在では全学的に広がり一般的なものとなっています。このように、利用者サービス面でもさまざまな工夫・変化をしてきております。

新型コロナウイルスによる影響

■大学図書館はどこも同様ではないかと思いますが、来館せずに利用できる資料が拡大しました。2020年の新型コロナウイルス感染拡大においては図書館が閉館せざるを得ない中、利用者に資料を届ける方法として、電子ブックの購入を拡大させました。コロナ前であれば、電子ブックは比較的割高であり、また利用者にとっても紙の資料を好む傾向があったことから、特に和書の電子ブックは教科書など限定的な購入にとどまっていたが、コロナ禍でこの利用が増えることになりました。この変化の前から感じていたことではあるのですが、和書の電子ブックには大学の教科書で使われるようなものが少なく、また契約形態も図書館にマッチするものが乏しいことから、本学は早稲田大学図書館と協力して、「早慶和書電子化推進コンソーシアム」を2022年に立ち上げ、出版社に提供を働きかける活動を行っております。株式会社紀伊屋書店をパートナーに、その趣旨に賛同していただいた国内出版社5社（株式会社岩波書店、株式会社講談社、株式会社光文社、株式会社裳華房および株式会社日本評論社）と2023年度末まで活動しましたが、継続を望む声もあり、2024年度から第2期の活動として、第1期からの継続1社を含む国内出版社3社（株式会社アルク、株式会社中央公論新社、株式会社PHP研究所）とプロジェクトを継続しております。また利用者に資料を届ける方法のもう一つの手段として、コロナによる休館期間中には、郵送による資料の送付サービスを行いました。従来は図書の貸出・返却や、文献の複写物の受け取りは来館を前提としておりましたが、これらを特別措置として郵送で行なうことにいたしました。行動制限が解除されたあとも、引き続き通常サービスとすることになり、現在に至っております。

図書館で働く人の在り様の変化

■かつてのように、図書館で専任職員として働き続けるということが、かなり難しくなっています。その背景には社会情勢の変化に伴って、企業などで働く上で必要とされるスキルが変わってきたことや、人口減少などもあると思われます。しかしその一方で、大学図書館においては、教員・研究者のニーズにあわせた資料収集やその提供、また教育の変化にあわせた学習環境の提供が、引き続き求められると思います。本学においては、人事異動はあるにせよ一定数の専任職員を図書館（メディアセンター）で確保することはできていますが、それに加えて外部人材を活用することで相乗効果をいかに高めていくのか、という視点が、今後より強く求められるようになっていくのではないかと考えられます。

これからの図書館像について

■「図書館」の基本的な機能・役割は今後も変わらないと思います。しかしその機能・役割は、紙の「図書」をベースとしたものではなくっていくと思われれます。特に大学図書館の場合、海外の学術雑誌はすでにほとんどが電子媒体となっており、その傾向は洋書においても同様です。また、是非はともあれ、インターネット上には多くの情報があり、図書館が従来扱ってきた資料だけが情報源ではない時代がすでに到来しています。オープンアクセスも、これが完全に実現した場合には、図書館が契約したものではありませんけれども、研究を進める上で重要な学術情報がインターネット上にあふれるということになってきます。このような、インターネット上に自由に存在する情報に、図書館がどう取り組むのかは大きな課題になるでしょう。本学メディアセンターでも、そのような状況も踏まえた中長期的なビジョンの検討を、これから進めようと考えているところです。

また「図書館」機能を教員、学生など大学の構成員によりよく活用してもらうために、今まで以上に「情報リテラシー」に取り組むことも大事だと考えています。特にこれから入学してくる学生は、スマートフォンしか使っていないという人が増えてきます。従来型の「情報リテラシー」を図書館側もアップデートする必要はありますが、利用者あつての図書館ですので、そうした活動も大事にしていきたいと思っております。

今後、受託会社に期待すること

■外部委託は、ともするとルーティン化できる業務というイメージがあり、そのためにどうしても価格競争になってしまいがちな傾向があります。そこに陥らないためにも、まず我々組織側がどういう位置づけで業務を外部委託しているのか、ということを変更して認識することが大事なのですが、それに応え続けてくれる企業であるということも、御社に引き続き期待しています。スタッフはどうしても流動的になりがちですが、そうでありながらも安定的に業務をお願いできること、また、お願いする業務を完成度の高いレベルで維持しているということはとても大事なことでと考えております。



「世界で輝く早稲田」を体現するべく、連携強固に即時オープンアクセス化の課題へ



笹渕 洋子様

早稲田大学
図書館事務副部長

外部委託開始当時から現在までを比較して



の20年の間に、本学が掲げる
Waseda Vision 150の核心戦略

「対話型、問題発見・解決型教育への移行」の方針に基づいて、様々な特徴を持つラーニング・コモンズが学内に整備されてきました。図書館では2015年頃からラーニング・コモンズ設置の検討を開始し、2017年に所沢図書館、2019年に理工学図書館に整備したほか、中央図書館では2017年、2019年と2期に分けて休館することなく大規模な改修を行い、整備しました。キャンパス内ではすでに数々のラーニング・コモンズが設置されていたことから、学習の場としての雰囲気や環境を保ち続けること、グループ利用と個人利用、発話の利用と静かに集中したい利用が共存できる環境に配慮すること等を意識しながら、什器の選定・配置やゾーニングを工夫し、図書館ならではのラーニング・コモンズを整備しています。

電子ジャーナルや電子ブック等の電子資料は年々増加しており、当館でも多くの電子資料を契約して利用者に提供しています。円安の影響も受ける外国資料の価格上昇に苦慮しながらも、現在では資料費の半分以上を電子資料に充てている状況です。またコロナ禍で電子資料の必要性が一気に高まったものの、国内書籍ではコンテンツ不足や利用制限などの課題に直面したことから、2021年度から早慶和書電子化推進コンソーシアムを立ち上げ、出版社との対話を通じて大学図書館向けコンテンツの拡充と新たなビジネスモデル構築に取り組んできました。

リポジトリについても当館は早くから整備して学内研究者の学術成果の発信を行ってきましたが、近年のオープンアクセスの加速によりその重要性は増しており、より効率的な登録・管理・発信のための環境整備や他システムとの連携に取り組んでいます。

新型コロナウイルスによる影響

■2020年の新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態では大学構内へ立入禁止となり図書館も臨時休館を余儀なくされました。図書館スタッフは在宅勤務中心となりましたが、郵送サービス、電子資料学外利用の臨時措置等に打ち込み、緊急事態宣言解除後の再開にあたっては、感染予防の観点から入館者数を制限する必要があったため、対象資格を限定し事前予約制にする等、初めての対応を手探りで進めました。大学本部に設置された「新型コロナウイルス感染症対策本部」にも適宜相談しながら大学の方針に沿って対策を検討し、学内の21(当時)の図書館・図書室においてそれぞれの事情を汲みながらも可能な部分は足並みをそろえるよう調整しながら対応していました。

臨時休館となった後、当初は対象者を限定しながら2020年5月中旬より所蔵資料の郵送サービスを開始しました。臨時休館を機に開始したサービスでしたが、その後恒常的なサービスとして位置付け、現在も継続しています。Zoomによるオンラインレファレンスも開始しました。

またオンライン授業が増加したことにより、閲覧席の利用動向にも変化がみられました。個人PCを用いる利用者が明らかに増加しており、今後も減少することはないと思われます。PCを用いた学習に適した環境を今後より整えていく必要があります。

図書館で働く人の在り様の変化

■図書館スタッフは所蔵資料についての十分な知識と利用者ニーズの把握をもとにサービスに臨むことが望まれますが、大学創立以来継承し今でも拡充している紙資料のみならず、先に述べた慶應義塾大学はじめ他館から入手する場合がありますし、電子資料が年々増加するとともに、当館の古典籍総合データベースのようにデジタル化資料も増えています。それらを国会図書館や他大学図書館から検索して入手する等、入手の手段も広がっています。また今後は学術論文や研究データのリポジトリ搭載の増加も想定されます。このような幅広い資料や学術情報環境について、最新の状況を把握して常に対応力をアップデートしていくことが求められると思います。



これからの図書館像について

■オープンアクセスへの取り組みは喫緊の課題となっています。これまでリポジトリからの研究成果発信は行っていますが、「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」に対応する学内体制を早急に整える必要があります。学術論文のオープンアクセスは「世界で輝く早稲田」を目指す本学の研究成果をまさに世界に向けて発信するものであり、研究推進部門が主体となりますが、図書館や情報部門も連携しながら取り組んでいます。

今後、受託会社に期待すること

■国の政策による学術論文等の即時オープンアクセス化に、各大学が直面し、対応を急いでいるところだと思います。これまで同様に図書館の使命を果たしながらこのような喫緊の課題に取り組むには、図書館も既存の業務を効率化しながら大学で一体となって対応していくしかありません。

御社のような受託会社様には、このような大きな変化に対応していくため、業務の効率化、さらにはそれを突き抜けたDXにつながるご提案も期待しており、ぜひオープンアクセスの推進を一緒に進めていただきたいと思います。



コストパフォーマンスと専門性の両立を叶えるプロフェッショナルな関係



矢野 均様

立命館大学 学術情報部
図書館学術情報課 課長

外部委託開始当時から現在までを比較して

立 命館大学が図書館業務の委託化を開始したのは1995年になりますので、すでに約30年が経過したことになります。夜間や土日の図書館カウンター業務の業務委託化が導入され、その後も貸出・返却窓口、図書・雑誌の受入、目録・装備、雑誌製本、図書整備、相互利用などの業務委託の順次拡大が進みました。さらに2001年度以降は研究者向けの高度なレファレンス業務が展開できる体制が構築されました。この間の業務委託の拡大によって組織も大きく再編され、1998年度には図書館の専任職員は32名から2006年度には17名に減少し、契約職員は39名から7名に減少しています。立命館大学図書館における業務委託に対する当初の目的は、人件費の削減ではなく、レファレンス業務の高度化や開館時間の延長などサービスの高度化でしたが、人件費に対するコストパフォーマンスにも結果的に寄与する結果となっています。

また、今も昔も大学における図書館が重要な知の源泉であることには変わりませんが、様々な情報は図書館に行かなくても自宅や研究室からインターネットを介して様々な情報が手に入るようになりました。運営管理体制はもとより、図書館に求められる役割も大きく変化してきたと感じており、単に冊子中心のサービスや収集、管理だけでなく、電子資料の知識や専門性も求められるようになってきたと感じています。

新型コロナウイルスによる影響

■立命館大学はコロナ禍において新型コロナウイルス感染症に対する立命館大学の行動指針（BCP）を設定し、図書館でもこの大学が設定したBCPレベルに準じて各種取組や利用サービスを実施することになりました。具体的には資料の郵送貸出サービス、ウェブによるレファレンス対応、図書館ツアーの動画での配信、電子書籍の拡充や試読サービスの実施等になりますが、いずれもこれまでに経験したことのない対応ばかりでした。図書の郵送貸出サービスの2020年度の貸出者数は延べ12,802名、貸出冊数は29,553冊と、当年度の貸出冊数全体

(275,071冊)の10.7%を占めるに至り、年間通じて多くの利用があり、コロナ禍における基本的なサービスとして定着しました。図書館入口に設置したサーマルカメラや各閲覧座席へのアクリルパネル、アルコール消毒液などは現在では撤去されてしまっていますが、このような感染拡大防止対策をした上での図書館施設利用、利用支援サービス支援の経験は、これまで当然のように対面開催で行ってきた図書館ガイダンスをはじめとするイベントや配布物の見直しに大きな影響と変化をもたらしました。

また、研究図書の収書業務においても、これまで刊行されてきた人文社会科学系紀要の電子出版化が加速的に進んだ印象を受けています。現在は研究用逐次刊行物の継続判断においても刊行物から電子版への乗り換えが進んでおり、コロナ禍が契機となって図書館運営業務全般に大きな影響を与えて来たと考えています。

図書館で働く人の在り様の変化

■大学事務職員が担う業務は多岐に渡り、年々、それぞれの業務において専門性を求められるようになって来ています。図書館においても全く同様で、求められる役割やスキルは変化し、高度化してきていると思います。貸出や返却、レファレンスサービスといった窓口サービス業務をはじめとする定型的業務の中心的な担い手を外部委託としてお願いすることによって、業務の効率化、コストの削減が実現した一方で、収書を初めとする大学職員が担っていく業務については専門の力量を持ちつつも、図書館全体の政策立案やマネジメントを担う職員としての役割が期待され、「高度化」「専門化」「付加価値化」がより一層求められるようになってきているのではないのでしょうか。また業務委託を進めた結果、大学職員が利用者サービスに直接関わることがなくなったことによって、図書館サービス業務のノウハウやそれを担う職員の専門性は逆に委託業者に蓄積されて続けて来たという見方も出来ます。そうしますと、今まで以上に大学と業務委託先との連携や情報共有を重要視して、共通のコミュニケーション基盤を整備するなどして互いに尊重しあえる職場環境の構築といったものが必要になってきているのではないかと考えています。双方がプロフェッショナルとして、お互いの強みを活かして成長していく関係性が求められていくのだと思います。



平井嘉一郎記念図書館は、立命館大学卒業生でニチコン株式会社の創業者である平井嘉一郎氏のご令室・平井信子様より寄贈され、2016年4月1日に開館しました。

これからの図書館像について

■オープンアクセスに向けた取組は非常に重要な課題ではありますが、この課題を考える際には、単に即時OA化を達成するというのではなく、2030年に向けて図書館の存在意義や目的を考え、どのようにプレゼンスを発揮していくのかを検討する良い機会になっていると考えています。大学図書館に蓄積された学術情報は、検索可能な形態で公開されることにより社会全体の共有財産として、学術情報基盤を構築する必要がありますが、研究成果の発信という意味ではまだまだ弱いのが実情です。例えば、立命館大学ではこれまで論文が講読出来る環境構築は図書館が、論文執筆支援については研究部がそれぞれに分かれて活動をしてきたわけですが、オープンリサーチの推進に向けては図書館も研究部といった組織はあまり関係なくて、研究者の活動に即した支援を大学として如何に整備していくのか、特に成果発信という観点では双方のリソースを上手く活用しながら積極的に関与をしていく必要があります。つまりは、従来の図書館機能の基盤を拡充していくことは大事なのですが、同時にLMA（図書館・博物館・アーカイブズ）連携や研究推進部署と協業を通じて社会貢献機能を強化し、大学が目指す大目標（次世代研究大学）の実現に寄与し、図書館の存在意義を引き上げて行かなくてはならないということになりますでしょうか。

今後、受託会社に期待すること

■長年にわたり立命館大学図書館の業務委託を担っていただいているキャリアパワー様には、これまでの長きにわたる経験を活かしつつ、引き続き質の高い業務をお願いしたいと考えています。他大学では、詳細な仕様書を作成し、毎年入札で業者を決定されている大学もありますが、前述させていただいたように立命館大学図書館はキャリアパワー様と約20～25年間にわたり継続して業務委託で協力関係を築いてきた歴史がありますので、この長期的な業務委託の経験をメリットとして最大限に活かしていければいいと考えています。本当に図書館業務の実務全般を担っていただいておりますので、基本的な図書館知識や専門性はもちろんのこと、お願いしている業務を俯瞰的に見ていただき、利用者の潜在的な要望を日々の対応から拾い上げ、業務分析を通じて図書館業務の改善に繋げる取組を期待します。また、これは本当に難しい課題になると思うのですが、働き手が減っていく将来、図書館に必要とされる技量を持った人材の確保は増々難しくなっていくと思われれます。そんな中、学術機関への派遣業務や業務委託に大きな実績を持っておられるキャリアパワー様には、優秀な人材を引き続き確保いただきまして、本大学における業務を通じて一緒に成長していける関係性を維持していきたいと考えています。

新たなビジョンに向けて、より使いやすく より便利な図書館へと進化し続ける



棚橋 猛様

中京大学 学術情報システム部
情報システム課 兼 図書館事務課 課長

外部委託開始当時から現在までを比較して

本

学では2008年、ライブラリーサービスセンター (LSC) より図書館業務の外部委託化を開始しました。

LSCは学生用図書を中心とした開架資料が配架され、地下鉄の出入口から一番近くアクセスもよく「開かれた図書館」としてのサービス拠点でした。その後、2013年には中部地区の大学図書館で初の自動書庫を持つ名古屋図書館へのリニューアルを機に、2キャンパス4館に委託範囲が拡大。各館の特色を残しつつ、業務委託という統率された組織運営によって運用が統一され、均一なサービス提供が実現しました。全館への委託範囲の拡大により専任職員数が減少する中で、迅速な指示命令システムが維持でき、またコロナ禍をはじめとする急激な変化に柔軟に対応してこられたのは、職員と委託チームとの信頼に基づく連携によるものと考えます。

ハード面においては、2013年名古屋図書館 (NL)、2015年豊田図書館 (TL) にラーニング・コモンズを開設、学生アドバイザーによる学修相談や企画イベントも毎年実施し、アクティブ・ラーニングの場として定着しました。学生たちが共同で取り組む姿は、今や図書館の日常風景となっています。

2013年のリニューアル当初は名古屋図書館で30台常備していた貸出用ノートパソコンも、2019年度学部入学生より開始したノートパソコン必携化 (BYOD) により廃止し、館内にはWi-Fi環境やBYOD専用プリンタを整備し、授業前後の学修時間を過ごす「場」として図書館が活用されています。

デジタルコンテンツは、2013-2023の10年間を比較すると、電子ジャーナルが7.4倍、電子ブックが14.3倍にも増加しました。来館せずとも様々な学術情報を入手できる環境整備、デジタル化されたコンテンツの利活用促進に加え、各種申請のオンライン化や最近ではキャッシュレス決済の導入など、より使いやすくより便利な図書館へと進化を続けています。

新型コロナウイルスによる影響

■新型コロナウイルスは、大学図書館において利用者と運営者の双方にさまざまな影響と変化をもたらしました。

利用者の観点から見ると、まず感染症対策としての図書館の閉館や利用制限が行われ、物理的な資料へのアクセスが困難になりました。これにより、電子書籍やオンラインジャーナルの利用が増え、図書館が提供するデジタルコンテンツの重要性が再認識されました。

また、従来の対面でのサービス提供が難しくなる中で、オンラインでのガイダンスや各種イベント開催が重要になりました。利用者はウェブサイトやオンラインでのガイダンスやイベントを通じて、リアルタイムでの支援を受けることができるようになり、図書館のサービスがデジタル化される重要な契機となりました。

運営者の観点では、感染症対策として迅速にサービスの見直しが行われ、デジタルサービスの強化が進みました。運営者はオンラインデータベースや電子資料への学外からのアクセスを可能とする環境の導入やこれまで対面で行ってきたガイダンスや各種イベントを全てオンライン開催できるようにしました。このような変化により、図書館サービスのデジタル化が進み、利用者のニーズに応じた柔軟な対応が可能となりました。

新型コロナウイルスにより、図書館の閉館や利用制限などで、利用者にとってマイナスな側面もありましたが、デジタルコンテンツの活用が進んだことや対面に依存しないサービスの提供が可能になるなどのプラスの側面ももたらしたと感じています。

今後も図書館サービスのデジタル化をさらに促進していきたいと考えております。

図書館で働く人の在り様の変化

■これまでの図書館職員は、主に書籍の管理や貸出業務、資料の分類・整理など、従来の図書館サービスの提供をメインに行ってききましたが、図書館サービスのデジタル化、図書館の役割が、学生の学修支援、学生・教員の研究活動の支援に変化したことにより、図書館職員に求められる人材像や役割が大きく変化しています。

これらの時代の変化とともに、図書館職員に求められる知識やスキルは図書館業務のみならず、教育や研究、情報技術等の専門的な知識がスキルも求められ、業務も多様化、高度化していきました。これらの変化に対応するため、本学では、これまでの定型的な図書館業務を御社に委託し、図書館職員は、より高度な企画立案業務に専念できるような体制にシフトしていきました。

今後も御社のご支援のもと、図書館サービスの多様化に対応しながら、図書館運営を担っていく必要があると考えています。



これからの図書館像について

■本学は、2024年に開学70周年を迎え、2014年度から推進している「NEXT10」を引き継ぎ、2024年度からの新たな10年間の長期計画として「NEXT10 2033」を策定いたしました。本長期計画では、教育、研究、国際化、学生支援、社会連携・社会貢献を5つの骨子として定め、それらを基に設定した10の推進分野における推進事項を実行しています。

図書館においては、推進事項「教育・研究を支える学術情報基盤の再構築」の実現に向けて、書籍等のデジタル化推進、スペースの活用、また近隣大学との連携を行うなど、図書館のあり方を見直し、教育研究活動の基盤を再構築していくとしています。

デジタル化の推進では、デジタルコンテンツの拡充や各種手続きのオンライン化、スペースの活用では、多様な学習スタイルに合わせた利用環境の提供、近隣大学との連携では、共同利用できる資料の整備や、リソースの共有、図書館サービスの相互運用などを進めることで、コストの削減やサービスの向上を図っていきたくと考えております。

これらの施策を着実に実行し、時代のニーズに合わせた図書館サービスの提供を目指していきたくと考えております。

今後、受託会社に期待すること

■業務委託開始当時は、御社に対して、新しい書籍や資料の受け入れ、分類・整理、貸出・返却業務、閲覧室の管理などの通常業務を滞りなく、安定して遂行されることが期待されてきました。現在も尚、通常業務の安定した遂行は必要不可欠ですが、現在の大学図書館は、予算や人員の制約、利用者ニーズの多様化など、さまざまな課題に直面しています。また、図書館業務や提供サービスも常に改善していかなければなりません。

御社は全国で多数の大学図書館の業務を請負われており、大学図書館の業務やサービスに関する専門知識やノウハウを保持されています。この専門知識やノウハウにより、これらの課題に対する解決策や運営改善のための具体的なアドバイスを提供していただき、これからも大学図書館業務の専門家として本学の図書館の発展にご支援をいただくことを期待しています。

Capo100号 記念メッセージ

多くのクライアント皆様方からのご指導、ご支援により、100号発刊の節目を迎えられましたこと、心より感謝申し上げます。

100号の記念にあたり、クライアント皆様方よりメッセージを頂戴いたしましたのでご紹介いたします。

池坊学園 総務部

田中 康雄様

Capo100号の発行おめでとうございます。キャリアパワー様には、困った時に適切な人材をご紹介いただき、大学業務のスムーズな運営において欠かせない存在となっています。営業の方々もユーザー側の高い要求にいつも親切に対応いただき感謝しております。これからも「困った時のキャリアパワー」であってほしいと思っています。今後益々ご発展されることを心より祈っております。

大阪工業大学 図書館長

寺地 洋之様

Capo100号発行、おめでとうございます。Capoは貴社の「広報誌」との位置付けですが、巻頭特集の協業先大学などのインサイドレポートは濃密かつ最前線の情報が満載で多くの示唆を得ることができます。これは組織体から発する一方向の広報でなく、貴社と協業している組織同士の多面的な「情報交換誌」のように感じます。今後も良いことはみんなで共有して、個々の仕事や職場環境がもっと有意義になるような誌面づくりを期待しています。

大阪歯科大学 図書課

宮本 忠之様

広報誌「Capo」100号の発行、おめでとうございます。貴社の企業力と信頼性、期待に素早く安心できる対応力がこの100号に繋がっていると思います。現代社会は、予測不能な不安定な時代と言われますが、信頼関係が構築されていれば、そのような心配は不要ではないでしょうか。様々な状況に対応していただける貴社は、とても素晴らしいと思います。これからも貴社の益々のご発展を祈念申し上げます。

京都女子大学 学術支援部長

酒井 桃子様

本学の100年を超える歴史の中で、女性活躍を願い、大正、昭和と時代を経て、平成をも走り抜け活躍してきた象徴が、平成29年に竣工した現在の図書館です。知的交流を生み出す「知恵の蔵」、コミュニケーションを生み出す「交流の床」を備えるこの新しい図書館を支えてくださっているのがキャリアパワーです。今後も大学図書館の伝統を活かした新しい形を、一緒に追及し続けていただきたいと思います。今後も貴社のご発展・ご活躍を、心より念じております。

愛知大学 総務部

久次米 剛生様

広報誌「Capo」100号の発行、誠におめでとうございます。100号を迎えられた背景には、御社の熱い想いと、その情報を楽しみにしている多くの読者の支えがあったからと拝察しております。

このたびの100号を機に、さらに充実した誌面づくりに挑戦され、ますますご発展されますことを祈念しております。

追手門学院大学 図書館長

湯浅 俊彦様

広報誌Capo100号、おめでとうございます。キャリアパワーの持つ可能性を示す事例の一つ。私の方から国立国会図書館デジタルコレクションと本学OPACとの連携を問題提起したところ、本学のキャリアパワー担当者は、すぐにその実務に入って下さいました。さわめて短期間に図書、雑誌合計1,028,794件(当時)のデータ提供が追大OPACより開始されたのです。所蔵から利用への変化に対応する見事な仕事でした。

大阪産業大学 人事部 人事課

加藤 敦也様

この度は100号の発刊、心よりお祝い申し上げます。「Capo」では毎回著名な方の巻頭インタビューから始まり、様々な有益情報を提供いただき、ありがとうございます。今後も200号、300号と未永く拝見できることを楽しみにしています。

関東学院大学 図書館運営課 図書館長

井上 和人様

創刊100号、誠におめでとうございます。貴誌には各大学図書館の優れた取り組みが数多く掲載され毎回楽しみに拝読しています。また図書館業界を含む最新トレンド情報も大変有益です。以前本学図書館もご紹介頂きました。当館には2023年4月に関内デジタル図書室が誕生し、御社には立ち上げからご協力頂き、また全館の安定的な運用にもご尽力頂いており大変感謝しております。貴誌が未永く続きますことお祈り申し上げます。

京都先端科学大学 図書課

佐野 直様

Capo100号記念にあたりお慶びとキャリアパワー様のご支援に感謝申し上げます。

本学は京都太秦と亀岡の2キャンパスで展開しています。両キャンパス図書館では、学生・教職員が、教育研究の場として多くの利用者を迎えています。一方で、電子資料の普及・浸透により、図書館像は変貌の時を迎えています。継続と変革を見極めながら、利用者にとって快適・有益、コミュニケーションの場としての図書館を目指していきます。

国際教養大学 中嶋記念図書館 学修支援室

須田 幸子様

Capo100号達成おめでとうございます。キャリアパワー様には中嶋記念図書館の業務全般を支えていただき大変お世話になっております。今年4月で8年目になりますが、知れば知るほど、御社の事業展開力と着実な実行力、企業理念に基づく人材育成力に感服しています。その根底には、広報誌等を通じた発信による顧客との信頼関係が大きく作用していると思います。感謝の気持ちとともに、今後益々のご発展を祈念申し上げます。

国土館大学 図書館・情報メディアセンター図書館課

郡司 博之様

広報誌「Capo」100号記念おめでとうございます！この度、広報誌「Capo」が100号を迎えられたこと、心よりお祝い申し上げます。いつも新しく有益な情報をご提供いただき、毎号楽しみにしております。これからもますますのご発展とご展開されますことをお祈り申し上げます。

女子学院 総務

西山 敬様

このたびはCapo100号記念、おめでとうございます。貴社の益々のご発展をお祈り申し上げます。

東洋大学 附属図書館長

大谷 奈緒子様

この度は広報誌「Capo」100号発行おめでとうございます。東洋大学では白山・川越・朝霞・赤羽台の各キャンパスに図書館があり、2014年の67号では白山図書館を、記念となる100号では赤羽台図書館を取り上げていただきました。空間としての図書館の役割は時代の流れと共に多様になり進化していますが、本や資料のもつ価値は不変です。キャリアパワーの皆様にお力添えいただきながら本の魅力を日々発信していきます。

花園大学 情報センター（図書館）

森 明博様

Capo100号発行おめでとうございます。大学図書館のおかれる状況やニーズが大きく変わる中、当館としても、学生のニーズ、本学の特色を取り入れた図書館ヘリニューアルを検討しています。今後の貴社の益々のご発展を祈念申し上げます。

明治学院大学 図書館次長

鈴木 直子様

Capo100号の刊行、おめでとうございます。キャリアパワー様は本学2か所のキャンパスにて、長年安定した運用をさせていただいており、よりよいサービスのための様々なご提案もいただいております。本学は職員も委託スタッフのみなさんも、学生のよりよい学びのために考え、チームワークの中で同じ目標に向かって進むことを大切にしており、よきパートナーとして共に図書館を支えていただけることを、今後も期待しております。

明治大学 人事部人事企画課

平井 聖子様

このたびは広報誌「Capo」が100号をお迎えになったとのこと、謹んでお慶び申し上げます。キャリアパワー様におかれましては、日頃から本学を支えていただく人材のご紹介や研修実施等でもご尽力いただき、本学にとって大変心強い存在です。この場をお借りして日頃の御礼を申し上げますとともに、貴社の益々の発展を祈念いたします。

桃山学院大学 総務部 総務課 課長

井峯 武様

この度は貴社広報誌Capo100号のご発行、誠にありがとうございます。毎号、様々な情報をご提供いただき、本学でも業務運営の参考にさせていただいております。これからもCapoを拝読できることを楽しみにしつつ、貴社の益々のご発展を祈念しております。

立正大学 品川学術情報課

水上 裕子様

「Capo」100号発行おめでとうございます。大学図書館、企業、研究機関でのさまざまな取り組みやスタッフさんの声など、掲載情報が盛りだくさんで毎号楽しみに拝読させて頂いております。これからも益々のご発展をお祈り申し上げます。今年度、本学古書資料館は開館10周年を迎えました。令和8(2026)年には図書館開館100周年を迎えます。これからも当館の活動にご支援賜りますようお願い申し上げます。

龍谷大学 図書館事務部長

川口 典男様

広報誌特別記念号の発刊、誠にありがとうございます。現在、多くの図書館業務を業務委託スタッフの皆様が支えてくださっています。本学での業務委託は1999年に閲覧業務の一部から始まり、今では整理や閲覧業務全般にわたるまで拡大しています。これは、株式会社キャリアパワー様と本学図書館が日々積み重ねてきた業務と、その中で築かれてきた信頼関係のおかげです。本学図書館の歩みには、常に株式会社キャリアパワー様のご協力がありました。今後ともに歩んでいただけることを心より期待しております。

Career Power

www.careerpower.co.jp

WE PRODUCE IDEAS FOR PEOPLE AND BUSINESS

Information



バックナンバーをご覧ください

キャリアパワーホームページから、Capoのバックナンバーをご覧ください。
紙版のバックナンバーもございます。ご入用の方はお申し付けください。

TEL 075-341-2929 <https://www.careerpower.co.jp/capobn/>



キャリアパワー各支社へは ☎ 0120-154-450 にお気軽にお問い合わせください

東 京	〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-7-2 東京サンケイビル15F	TEL 03-6895-2929	FAX 03-6895-2911
大 阪	〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田 1-12-17 JRE 梅田スクエアビル2F	TEL 06-6346-2929	FAX 06-6345-1268
名 古 屋	〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅 3-25-9 堀内ビル8F	TEL 052-563-2929	FAX 052-563-3511
京 都	〒600-8216 京都府京都市下京区堀小路通烏丸西入東堀小路町 843-2 日本生命京都ヤサカビル4F	TEL 075-341-2929	FAX 075-341-3828
滋 賀	〒525-0037 滋賀県草津市西大路町 2-5 Nビル5F	TEL 077-516-2929	FAX 077-516-2930
システムセンター	〒600-8269 京都府京都市下京区七条通堀川西入西八百屋町160	TEL 075-344-6776	FAX 075-344-6780

発 行

株式会社 キャリアパワー

企画 / 制作

株式会社 キャリアクリエイト

2025年2月発行